防府天満宮の歴史館には、奉納物として神社に納められた約 600 点が展示されています。以下は最も重要な一部の展示物の簡単な概要です。

神社の起源を描く絵巻物

全長 75 メートルの絵による伝記

歴史館で最も重要な展示物は、箱入の松崎天神の起源を描く 6 巻の絵巻物（「紙本著色松崎天神縁起絵巻 6 巻 箱入」）です。

これは、端から端まで広げたときに 75 メートルになる絵巻物で、全 6 巻です。巻物には 2 つの版があり、鎌倉時代（1185～1333 年）の 1331 年に創作された原本の鎌倉版と、室町時代（1336～1573 年）の 1504 年から 1520 年にかけて制作された室町版があります。

6 巻の内最初の 5 巻には、菅原公が左遷の旅の途中に立ち寄った京都の庭園にある梅の木に別れを告げる話や、道真公の葬儀の時に座り込んだまま動こうとしなかった牛の話、そして敵に復讐の雷を落とした天神としての話など、有名な彼の伝説が詳しく描かれています。しかし 6 巻目は終始、防府天満宮について描かれています。（名称の松崎は、防府天満宮が元々、松崎神社として知られていたことに由来しています。）

防府天満宮以外で鎌倉版の原本の巻物を展示することは禁じられていました。そのため、ほとんど広げられて光にさらされることがなかったため、非常に鮮やかな色が残っており、700 年近く経っていますが、紙にはシワもまったくありません。皮肉なことに、このように制限がかけられていたために、鎌倉版は実際、室町版よりも約 200 年前のものにもかかわらず、より良い状態にあります！

その芸術的価値に加えて、1952 年に火災に遭い、元の計画に従って神社を建て直さなければならなかったとき、この絵巻物に描かれた社殿の場面は実際に大いに活用されることになりました。

金銅宝塔

平和のための宝塔

この高さ 40cm の銅めっきの宝塔（金銅宝塔）は 1772 年、神社に安置されました。宝塔内部には仏舎利(仏の遺骨)に見立てられた水晶が安置されています。（この宝塔には、瑠璃色の珠玉が安置されています）。宝塔が神社に奉納された 12 世紀後半、天皇は将軍と比べて権力を失いつつあり、日本は激変の時期にありました。周防の役人であった藤原季助は、宝塔の銘文にある通り、後白河上皇の長寿、周防（現在の山口県）の国土豊穰、子孫繁昌を祈請するために神社に奉納されました。金銅宝塔は、日本の 12,000 社の天神神社の中で最古の宝物として知られており、唯一無二の貴重なものです。

梵鐘

戦利品

他の展示物には、禅寺で鑄造された、人々に時を知らせるために撞かれていた梵鐘があります。鎌倉時代（1185～1333 年）、福岡の天福禅寺で鑄造されたもので、地元の大名家大内義隆（1507～1551 年）が天福禅寺から奪い神社に奉納しました。